

最近の WIPO の動き (36)

世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所*

1. はじめに

本稿では、WIPO の最近の動きとして、以下の3つを紹介する。

- ・ WIPO GII 2023 「科学技術クラスターランキング」章の概要
- ・ 知的財産と先端技術に関する WIPO 対話 (第8回) ～生成 AI と知財～
- ・ WIPO 日本事務所主催「Show and Tell プレゼンテーションコンテスト」開催報告

2. WIPO GII 2023 「科学技術クラスターランキング」章の概要

WIPO は、2023 年 9 月 27 日に「Global Innovation Index (GII)」の 2023 年版 (GII 2023) を発表した。本稿では、この正式発表より 1 週間先立って公表された、GII 2023 に収録される「科学技術クラスター」章¹⁾について、その結果概要を紹介する。

この科学技術クラスター (science and technology (S&T) clusters) とは、PCT 出願の発明者 (最近 5 年の公開分)、同期間の Web of Science の Science Citation Index Expanded (SCIE) の科学論文に記載されている著者の居所より分析を行い、一定の半径内に一定以上の密度のあったものを“クラスター”と判断し、特定されたクラスター内の特許・論文数をカウントすることで順位付けしたものである。

今年の科学技術クラスターランキングでは、東京ー横浜地域が 7 年連続の世界第 1 位であった。他、日本からは、大阪ー神戸ー京都地域が世界第

7 位、名古屋地域が世界第 15 位と上位にランクインするとともに、金沢地域が世界第 86 位であった。上位を見ると、1 位の東京ー横浜地域に続き、2 位が深圳ー香港ー広州地域、3 位がソウル地域、4 位が北京地域、5 位が上海ー蘇州地域と、ここまで東アジアの都市が上位を独占しており、それに次ぐ 6 位に米国サンノゼーサンフランシスコ地域がランクインしていた。

これを人口比で見たランキングでは、1 位が英国のケンブリッジ地域、2 位が米国のサンノゼーサンフランシスコ地域、3 位が英国のオックスフォード地域、4 位がオランダのアイントホーフェン地域、5 位が米国のボストンーケンブリッジ地域、が上位にランクインしていた。日本では、金沢地域が 11 位につけ、次いで、東京ー横浜地域が 18 位であった。

トップ 100 のクラスターには、中国が 24 地域ランクインしており最多、米国 (21 地域)、独国 (9 地域) がそれに続いており、日本は上述の 4 地域であった。

各地域の科学技術クラスターの状況は、各国のイノベーション状況の詳細を把握する上で有用な情報であり、また、高い科学技術を有する者が集まっているという観点では、オープンイノベーションを生み出しやすい環境を示唆するものとも

* WIPO の外部事務所の 1 つ。東京・霞が関に位置する。詳しくは、WIPO 日本事務所のウェブページを参照されたい：

<https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/>
また、WIPO や WIPO 日本事務所の主要な活動については、ニュースレター (四季報) にて定期配信中：
https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo_japan

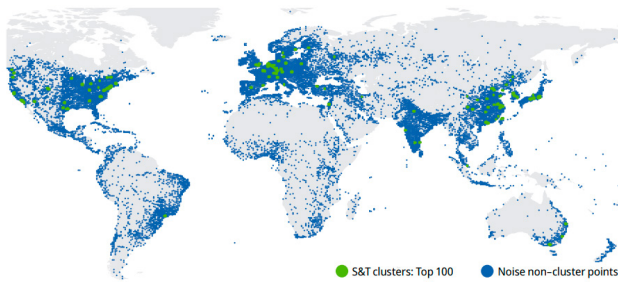


図. 本調査で特定された科学技術クラスター

Economy	Economy name	Top 100 clusters
CN	China	24
US	United States	21
DE	Germany	9
JP	Japan	4
CA	Canada	4
IN	India	4
KR	Republic of Korea	4
FR	France	3
GB	United Kingdom	3
AU	Australia	3

表. トップ 100 クラスターにランクインした地域数 (国別ランキング)

言える。世界の 130 を超える経済圏 (国・地域) のイノベーションを詳細分析した GII 2023 の本編と合わせ、この科学技術クラスター章の方も是非ご参考にしていただきたい。

3. 知的財産と先端技術に関する WIPO 対話 (第 8 回) ～生成 AI と知財～

WIPO は「知的財産と先端技術に関する WIPO 対話」(WIPO Conversation on Intellectual Property and Frontier Technologies) を 2019 年から行っており、その最新セッションとなる第 8 回目の会合が、テーマを「生成 AI と知財」とし、2023 年 9 月 20-21 日の 2 日間にわたり開催された²⁾。本セッションでは、生成 AI が知的財産制度や政策に与える影響について、活発な議論が行われた。160 カ国から 2,000 人以上の世界的な AI や知財の専門家らの参加があり、世界的にも大きな関心を集めた。

セッション初日の冒頭には、米国ニューヨーク

大学 心理学・神経科学 名誉教授であり、認知科学、AI 分野の業績で著名なゲイリー・マーカス氏による基調講演が行われ、「AI を規制しないわけにはいかないが、規則で縛るわけにもいかない。我々はこれを正しく理解する必要がある。私たちには無駄にできる時間はない」と AI 分野の対応が差し迫っている点が強調された。その後、初日は、生成 AI 技術の概要 (応用可能性、限界、将来の展望、等)、生成 AI の規制の必要性、生成 AI の事例紹介、生成 AI と知財の全体像 (AI モデルを保護する方法、データ、訴訟事例、等)、生成 AI と著作物をめぐる課題 (制限と例外など) 等、セッション 2 日目には、生成 AI の創作物の著作権・所有権、生成 AI 時代におけるイノベーター・クリエイターの知財戦略の在り方、知財庁のツールとしての生成 AI、等について、モデレータ、パネリスト合わせて合計 30 名以上もの各国の有識者が登壇し、活発な議論が行われた。本セッションの全体は、WIPO ウェブキャスト³⁾にて自由にご視聴いただける。

なお、日本でも、同月 13-15 日に開催された「2023 特許・情報フェア&コンファレンス (主催: 一般社団法人 発明推進協会、一般財団法人 日本特許情報機構、産経新聞社)」の 2 日目に開催された特別フォーラム「知財 DX2023 知財業界における AI 活用の行方～開発・普及の現状と課題、近未来像を考える～」⁴⁾において、生成 AI が知財業界に与える影響について、渡部俊也 東京大学執行役・副学長 未来ビジョン研究センター 教授によるモデレータの下、パネルディスカッションが行われた。本フォーラムの冒頭、弊所所長の澤井より「“AI と知財”をめぐる国際情勢」と題し、AI 分野の投資動向、技術動向、国内外の政府の動き、WIPO における検討状況、AI 分野のイノベーションに果たす知財の役割、等について、紹介させていただいたが、本フォーラムは会場が満席になり、日本の知財関係者における生成 AI への関心の高さがうかがえた。なお、こちらの資料は特許・情報フェア&コンファレンスのウェブサイトで開催されている。こちらもご関心があれば、是非ご参照いただきたい。



2023 特許・情報フェア&コンファレンス
特別フォーラムの様子

4. WIPO 日本事務所主催「Show and Tell プレゼンテーションコンテスト」開催報告

WIPO 日本事務所は、今年度初めて「Show and Tell プレゼンテーションコンテスト」を開催したので、その概要を紹介する⁵⁾。

「Show and Tell」とは、初等・中等教育において、言語化の練習を主な目的として使われる国際的な教育的手法である。Show and share や Sharing time と呼ばれ、自分にとって思い入れのあるものをクラスメートなど人前で紹介し、質疑を通じ、それにまつわるエピソードや自身の思いなどを伝えるものであり、紹介するものは、思い出の品やお気に入りのもの、また見えないものについて話す場合もある。

今回、WIPO 日本事務所が主催したコンテストは、『イノベーション・クリエイションの素晴らしさを、あなたの言葉で』をテーマに、若い世代⁶⁾が考える発明や創造について、Show and Tell 方式でプレゼンテーションをしていただいた動画を募った。具体的には、イノベーションやクリエイションに対する考え、また、自分で創作したものや活動の紹介、イノベーションやクリエイションで世界の問題を解決している方や活動の紹介、更に、その知的財産との関係などを自由な形で発表した動画を募ったところ、初年度の取り組みであるにもかかわらず、多くの方に応募をいただいた。

その後、一次選考を通過した全 20 名（小学生・中学生・高校生・大学生の各部門につき各 5 名ずつ）に、9 月 28 日に東京・赤坂インターシティカンファレンスで開催した発表会に招待し、国内外の知的財産、教育、コミュニケーション分野の専門家である審査員 9 名の前で、同テーマを扱った発表を行っていただき、各部門の上位 2 名に対して、表彰を行った。



今後、受賞作品は、途上国などでの知的財産制度普及のため、英語をはじめとする複数の言語に翻訳の上、WIPO プラットフォームにて発信される予定である。本コンテストを通じ、広く国際的に行われる教育手法 Show and Tell が、日本国内で普及されるとともに、本コンテスト受賞者のプレゼンテーションを通じ、国内外の若い方々にイノベーションやクリエイションの素晴らしさを感じていただけることを願っている。

(注)

- 1) GII 2023 科学技術クラスター章のプレスリリース：
https://www.wipo.int/pressroom/ja/articles/2023/article_0009.html
科学技術クラスター章全文（英語）：<https://www.wipo.int/export/sites/www/pressroom/en/documents/pr-2023-907-cluster-ranking.pdf>
- 2) 関連する WIPO ウェブサイト：https://www.wipo.int/about-ip/en/frontier_technologies/news/2023/news_0002.html
- 3) WIPO ウェブキャスト：<https://webcast.wipo.int/home>
- 4) 2023 特許・情報フェア&コンファレンス 特別講演・

特別フォーラムウェブサイト：https://pifc.jp/2023/visit/#exhibit_semispe

5) 関連する WIPO ウェブサイト：https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/news/2023/news_0010.html

6) 参加対象は、日本の小学校、中学校、高校、又は大学に在学されている者

(原稿受領日 2023 年 10 月 5 日)